

北海道博物館一括資料目録 第1集

# 弥永コレクション

2017

北海道博物館



# 目 次

|                   |    |
|-------------------|----|
| ■ 弥永コレクションの寄贈を受けて |    |
| 石森秀三              | 1  |
| ■ 資料の寄贈にあたって 弥永芳子 | 2  |
| ■ 第1部 企画展図録       | 3  |
| 凡例                | 4  |
| 第1章 弥永北海道博物館      | 5  |
| 好奇心と興味の赴くままに      |    |
| 弥永芳子さんの功績とその足跡    | 6  |
| 関連資料              | 9  |
| 第2章 特徴的なコレクション    | 13 |
| 貨幣                | 14 |
| 化石・鉱物             | 16 |
| 希少金属              | 18 |
| 第3章 さまざまな分野への関心   | 21 |
| 考古資料              | 22 |
| 貝類                | 26 |
| アイヌ民族資料           | 28 |
| 文書・美術資料           | 30 |

|                    |     |
|--------------------|-----|
| ■ 第2部 資料目録         | 33  |
| 凡例                 | 34  |
| 第1章 写真             | 35  |
| 写真一覧               | 36  |
| 2 地学               | 40  |
| 3 生物               | 55  |
| 4 考古               | 58  |
| 5 民族               | 64  |
| 6 生活               | 65  |
| 7 産業               | 67  |
| 8 文書               | 71  |
| 9 美術               | 73  |
| 第2章 目録             | 75  |
| 1 記録               | 76  |
| 2 地学               | 76  |
| 3 生物               | 81  |
| 4 考古               | 84  |
| 5 民族               | 98  |
| 6 生活               | 101 |
| 7 産業               | 102 |
| 8 文書               | 114 |
| 9 美術               | 120 |
| 「弥永コレクション」資料収集の足取り | 121 |

## 凡例

- ・本目録は、北海道博物館がまとめた寄贈資料を受け入れた際に、その資料の学術的価値を広く周知するとともに活用をはかることを目的として刊行する『北海道博物館一括資料目録』の第1集である。
- ・本目録は、弥永芳子氏から2015（平成27）年から寄贈された旧弥永北海道博物館資料のうち、2017（平成29）年10月までに受け入れた922件、2,070点を扱うものである。
- ・内容は、資料受入に伴い開催した第9回企画テーマ展「弥永コレクション」の図録を兼ねた第1部と、資料目録の第2部からなる。

---

## 弥永コレクションの寄贈を受けて

---

今回、北海道博物館にご寄贈いただいた「弥永コレクション」の主人公は、現在98歳の弥永芳子さんです。弥永さんは、1919（大正8）年に札幌で生まれ、北海道ドレスメーカー女学院を卒業し、道庁職員と結婚されました。ところが、31歳のときに配偶者を亡くされ、北海道大学の近くで学生専用のアパートを営しながら二人のお子さんを育てられました。

弥永さんは46歳の時（1965年）に欧州を旅行する機会があり、多様な古銭の世界に魅了され、貨幣の歴史への関心を持たれました。帰国後に北海道の古銭について収集・研究を行うようになり、51歳の時に北海道貨幣史研究会を発足させて会長を務められました。自らの研究成果をまとめて、58歳で『箱館通宝鑄造の顛末』を刊行されました。

古銭の収集・研究を通して、弥永さんは古銭の素材の金属への関心を深められました。道内の砂金掘りの歴史を文献研究するだけでなく、道内300か所を現地調査して、砂金や砂白金などの希少金属を自ら採取されました。道外や外国の数多くの鉱山にも出掛けて調査を行っておられ、日本砂金協会の会長も務められました。一方で希少金属の科学的分析を通して、地質研究にも関心を持たれ、道内で琥珀を発見されるとともに、数多くのアンモナイトも収集されました。貨幣の収集・研究に始まり、その後、希少金属や鉱物類の収集・研究を行っているうちに収集資料が膨大になったため、弥永さんは66歳の時（1985年）に私設3階建ての「弥永北海道博物館」を開設され、95歳まで館長を務められました。2014（平成26）年に博物館を閉館され、貴重なコレクションのほとんどを北海道博物館にご寄贈くださいました。弥永さんは約半世紀をかけて、北海道にとって数多くの貴重な資料を収集されるとともに、貨幣史、金属史、北海道郷土史の研究者として、これまでに数多くの著作を出版され、現在も執筆活動を続けておられます。

弥永さんの偉大さは、自らフィールドに出掛けて調査を行い、自ら資料採取も手掛けられ、それらの資料の学問的分析や科学的分析を行った上で論文や著書を刊行されるとともに、博物館を開設して、より多くの方々に北海道が有するさまざまに貴重な価値を広く知らしめた点にあります。日本の学界において、分野横断研究や文理融合研究が未発達の時期に、弥永さんが早くから分野横断・文理融合研究を進められ、数多くの優れた学問的業績を挙げられたことは高く評価されるべきです。私はまだ72歳に過ぎませんので、百寿を目前にしておられる弥永さんを見習って、知的好奇心や学問的好奇心を失わないようにして、百寿を目指して頑張っていきたいと願っています。

北海道にとってかけがえのない貴重なコレクションをご寄贈いただけましたことを厚くお礼申し上げます。



北海道博物館長 石森秀三

---

## 資料の寄贈にあたって

---



大正生れの私の時代は「男女7歳にして席を同じにすべからず」で、一貫して女子校でした。主婦として戦後の苦しい時代に夫は幼い子2人を残して他界しました。ある時、スタンプ店で子どもの頃使った懐かしい1銭と大きい2銭銅貨を見たのがきっかけで貨幣史に夢中になりました。そんな時に旅行社の人に戦後初めての海外旅行ツアーを進められ参加しました。羽田からアラスカ経由で北極海を飛んでロンドンに到着。空港で小銭に両替すると通貨すべてが人物像なのに驚きました。フランスで市場や裏街を歩いていると、銀行が目に入りました。もしやと思い1万札を出し「ゴールドチェンジ」すると、25フランの小さい金貨4枚と両替してくれました。日本で不換紙幣が外国では兌換できると知り、スイス銀行で2万円出すと、大型金貨1枚と各国の小型金貨4枚と両替してくれました。

帰国し、金貨を見ると、国によって金色が微妙に違います。何の金属が混じっているんだろうと考えていた時、浜頓別の知人から砂金掘りの老人がいると聞き、砂金を採る様子を見せてもらいました。川の土砂をユリ板に乗せ、水の中でゆすり、土砂を流すと、金色に輝く砂金が現れました。驚きました。それから老人に教えられ全道各地の川を調査しました。北端枝幸から南端日高まで真すぐ走るカンラン岩、蛇紋岩帯を源流とする川から砂白金、日本唯一の貴重金属が採取されました。砂金・砂白金・鉍物は、上流では角張っているが中流では丸く、下流では小粒に、浜では波にもまれ砂と同じ微小になっています。川によって砂金の色、形が違うので道内、本州、外国の川で発掘し、分析しました。

大きい砂金塊を掘った時の驚き。珍しい鉍石を見つけた時の感激。原稿が本になった時の喜び。ほんとうに充実した人生です。老齢のため29年間継続した博物館を閉館したのを機会に、資料の散逸を避けるために、私が収集した資料を北海道博物館に寄贈しました。多くの方々に楽しんでいただければ至上の幸です。

弥永芳子（白寿）